松本渉著『社会調査の方法論』（初版初刷）正誤表

2022 年 10 月 20 日

p.11 例 2.3 の表　表全体（データ）の差し替え

問 30　衆議院の総選挙に投票しているか

	いつも投票している	たいていの場合，投票している	時々投票している	ほとんど投票しない	投票したことがない	その他	合計
20 代	14	11	7	4	7	1	44
	32%	25%	16%	9%	16%	2%	100%
30 代	48	30	5	5	3	0	91
	53%	33%	5%	5%	3%	0%	100%
40 代	53	28	8	6	0	0	95
	56%	29%	8%	6%	0%	0%	100%
50 代	83	20	6	4	0	0	113
	73%	18%	5%	4%	0%	0%	100%
60 代	102	11	3	2	0	0	118
	86%	9%	3%	2%	0%	0%	100%
70 代	77	5	0	2	0	0	84
	92%	6%	0%	2%	0%	0%	100%
合計	377	105	29	23	10	1	545
	69%	19%	5%	4%	2%	0%	100%

p.46　下から 12 行目

非指示的な面接法聴取調査においては　⇒　非指示的な面接法においては

p.47　表 7.1

表中央，右側の「個別面接調査※１」から※１を削除

p.70　下から 5 行目

考えられわけです。⇒　考えられるわけです。

p.71　7 行目

他のモードに比べて　⇒　留置調査や電話調査に比べて

p.95　脚注

無作為化実験（randomized experiment）やスプリット＝バロット法(split-ballot experiment)と呼ばれます，調査対象者を無作為に折半して比較する実験調査を行いやすいというメリットもあります.

⇒　調査対象者を無作為に折半して比較する実験調査を行いやすいというメリットもあります．このような実験調査は，無作為化実験（randomized experiment）やスプリット＝バロット法(split-ballot experiment)と呼ばれます.

p.107

下から 13 行目

工業統計調査（1909[明治 42]年～2020[令和 2]年）

下から 10 行目

実施する年の前年を除き）実施されています.

⇒　実施する年を除き）実施されていました（「経済構造実態調査」で継続）.

下から 9 行目

商業統計調査（1952[昭和 27]年～2014[平成 26]年）

下から 7 行目

実施されている調査です。　⇒　実施されていた調査です。

p.125　表 15.3

組み合わせの

5 行目　ABEF　⇒　ABDF

6 行目　ABCF　⇒　ABEF

p.127　下から 11 行目　二十面体　⇒　正二十面体

p.151　例 19.2　右側の表　対象者の割当人数の表頭（左の表に揃える）

男性　｜　女性　女性　　⇒　トル（空白）　｜　男性　女性

p.164　1 行目

Cinii Books　⇒　CiNii Books

Cinii Articles　⇒　CiNii Research

p.167　22 行目

管理されています　⇒　統制されています

p.172　例 21.3 の下から 5 行目

質問 H では　⇒　質問 II では

p.211　下から 2 行目

（表 25.1）　⇒　トル（削除）